

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 ニュース/米がない!
- 3面 読者のページ/まんが/俳句
- 4面 健康体操/ホットライン
- 5面 憲法講座/ホット
- 6面 老けないおやつ/母の歴史
- 7面 新婦人の活動/主張/自宅介護



長崎・大村市 力武恵子

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

知ってほしい 人道危機の現実

命の危機に向き合い活動する「国境なき医師団」

世界の紛争地や災害の被災地などに駆けつけ、人道援助として無償で医療を提供する国際NGO「国境なき医師団」。新婦人は5月、全国の会員・読者からウクライナとパレスチナへの支援の気持ちで寄せられた募金を国境なき医師団に寄付しました。「現地の実態を知ってほしい」と7月12日、国境なき医師団日本事務局の川手治子さん、坂井沙矢香さんに報告してもらった活動を紹介します。

世界74の国と地域で

国境なき医師団(以下「MSF」)は、民間で非営利の医療・人道援助団体です。紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕する人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けています。同時に、援助活動の現場では、さまざまな人権侵害や国際法を無視した暴力を目の当たりにすることもあり、「証言活動」にも力を入れています。1971年に医師とジャーナリストによってフランスで設立、1992年には日本事務局が発足しました。



停電時は携帯のライトを照らして手術を続けた

11月30日(パレスチナ) ©MSF

6割が政情不安定な地域

MSFの活動は、難民キャンプや紛争地、自然災害の被災地や医療体制の崩壊地域での医療援助の他、母子保健、性暴力被害、新たな感染症への対応や心のケアなど多岐にわたります。世界で6秒に1人、5歳未満の子どもが命を落としています。その原因の多くにわたっているのが栄養失調です。栄養失調への対応も力を入れている分野の一つです。活動地域は約半数がアフリカ、続いて中東、アジアです。約40%は政情が安定した地域ですが、約60%は武力紛争など政情不安定な地域です。

必死に命をつないで

昨年2月に起きたトルコ・シリア地震をはじめ、世界各地で紛争や自然災害が相次ぎ、緊急援助に多く



即時停戦を訴える、MSF日本事務局長村田慎二郎(左)と中嶋優子(右) =12月13日 ©MSF

MSF日本事務局は、昨年10月に赤十字国際委員会と共同会見を開き、「医療を攻撃するな」「国際人道法の順守を」と訴えました。また、ガザでの無差別攻撃の即時停止と医療の保護などを求める緊急オンライン署名を実施。約2週間で集まった署名10万307筆を外務省に提出するなど、とりくみを重ねてきました。

昨年11月中旬から3週間、MSF日本の中嶋優子会長が、パレスチナ

ガザ地区南部へ派遣されました。中嶋さんは、普段は米国の病院に勤務す

る麻酔科医・救急医です。現地では南部ハン・ユニスのナセル病院などで負傷者の治療にあたっており、12月7日まで活動しました。昨年11・12月の中嶋さんの体験を紹介しましょう。



近くで避難生活を送る子どもたちと遊ぶ中嶋会長(右) =11月25日(パレスチナ) ©MSF

中嶋さんはまず、エジプトで越境の許可を数日間待ち、ラファ検問所からガザ地区へ入りました。13人からなる多国籍のチームで、10日間は自給自足できる水・食料を各自が持参しました。滞在中はイスラエル軍のドローンの音が常に聞こえ、空爆の音を何度も聞き、揺れる部屋の中で死を覚悟したこともあったと言います。

水や電気の確保は、ギリギリの状況。停電時には、携帯電話のライトで照らしながら手術を続けました。(左上写真)

ガザでは「WOUNDED Child No Surviving Family」——「負傷した子どもで、生き残った家族がない」ということを意味します。あるとき、

空爆で搬送されてきた少女がいました。足を粉々に骨折しており、全身に重度の熱傷も負っていました、なんとか救命しましたが、足の切断をしないと感染症で命が危ない状態でした。切断手術をするには家族の同意が必要ですが、この子には家族がいまいません。空爆で全員亡くなってしまっていたのです。結局、体を受けた傷が深すぎて少女は手術をする前に亡くなってしまいました。家族を全員亡くしていたり、手を尽くしても助からない子どもが多いことに愕然としたと話していました。その一方で、宿泊場所の近所には現地の人がびとが暮らしていて、子どもたちの笑顔に心が救われたと言います。

9月28日号は休刊です

2面へ

